

第7回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 平成29年5月19日（金） 10:00～11:30

【場 所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 軽井沢町 藤巻進町長

基本会議委員：朝比奈一郎委員、市村初仁委員、鈴木幹一委員、
須永久委員、西山紀子委員、横島庄治委員、
志立正嗣委員、貫名礼恵委員、内堀英希委員
遠藤寛士委員、荻原確也委員、児玉大輔委員

内 容

1. 開 会

2. 会長あいさつ

- ・ 海に囲まれた日本は、狭い国土と複雑な地形で暮らし難く脆弱で危険が伴う。手強い国土を相手に、長い歴史をかけてここまで整えてきた。主軸になったのは旧都市計画法で、大正8年に内務大臣だった後藤新平のバックアップにより制定された。欧米先進国にひけを取らず、日本都市づくりのスタートを切り100年の歴史を重ねてきた。この間に、規制と緩和という二つの相対するコンセプトを使い分けながら、国土を整備し手掛けてきた。今最新の国土づくりの基本方針を探ると、一つは大都市に対する都市再生という概念である。一方、地方地域においては少し異なった捉え方で、ふるさと創生に対応している。風土フォーラムには、更にコンパクトシティも入ってくる。翻って軽井沢を見ると小さな大都

市のようなところがあり、この二つのコンセプトについて複雑な選択肢を求められる。美しい村を目指す国際都市という、ユニークなテーマは、どこが都市計画の軸になるのか分かりづらいが、そこがまた軽井沢の面白いところでもある。

- ・ 軽井沢型コンパクトシティ、軽井沢駅北口の表玄関づくり、スポーツウェルネス対策、教育研究機関の誘致拡大、別荘地問題等のテーマについて、色々な方向から検討研究し勉強していくのが基本会議である。
- ・ 1年間の手探り状態から、具体的な成果として、ビジネスライセンスの答えを頂いた。2年目に入り、地味だが着実な成果を上げていくため、皆さんから意見を伺う機会を増やすよう事務局でも検討している。それぞれの意見を自由に出し合える基本的な土壌を守りながら、具体的な施策論に進みたいと思う。1年間よろしくお願ひしたい。

3. 議 事

(1) 事業者認定制度（仮称）について

- 「良質なまちづくりに協力・努力した事業者などを顕彰する制度」の導入について町へ提言をした。役場内の検討委員会と調整を図りながら実施を目指す方向で検討している。基本会議からも意見をいただきたい。

【意見交換】（発言順）

A委員

事業者を認定したのち、町が公表するだけで事業活動が後押しできるのか。公表以外にも、町及び町民において、事業活動支援のアクションを検討の中に入れるとよい。

会長

資金的支援をイメージしているのか。

A委員

公共的な発注を、認定事業者に絞ることにより、認定事業者が主となりまちづくりが出来るので、よい循環が生まれる。また、エコシス

テムを意識した支援、事業活動の後押しも検討できると思う。

会長

認定制度による優遇は、自由な処遇や、公正性と関わる部分があり、簡単ではないが趣旨を理解したうえで検討してもらいたい。

B委員

事業者認定制度の会議の中で、インセンティブも検討していると聞いたが、検討内容を説明してもらおうと議論しやすい。

C委員

事業者全体で捉えた時に、業種により対象となる内容に違いが出るので、どう整合性を取るかを踏まえながら検討しなければいけない。既存の制度との整合性も図らなければ、偏った形になりかねない。現状は、色々な意見があり纏まらない状況である。

D委員

新しい仕組みを導入するには、ステップを踏む必要がある。最終的には、インセンティブや既存の制度との整合性を図る事になるが、まずは町の方針やルールを厳守し、良質なまちづくりのために努力するという意識付けを目的とする啓蒙活動が第一段階であり、緩やかにスタートした方がよい。第二段階として、事業者の書類審査、経営者の面談を実施するとよい。

会長

公共の場合、緩やかだが制度化を前提にしなければいけないというバランスが難しい。

会長

審査会をどの機関が請け負うのかがポイントになる。基本会議としての関わり方、別組織設立、事務方に一任など将来的に重要な案件になるので意見があれば伺いたい。

B委員

分野が大事になる。軽井沢町が、どういうコンセプトを大事にするのかで分野が決まる。

会長

次回基本会議時には、詳細な制度設計の提案が出来るようにしたい。

(2) 今年度の活動構想について

○第5次軽井沢町長期振興計画 後期基本計画について

行政運営を総合的かつ計画的に行う指針として、軽井沢町長期振興計画を策定するにあたり、町の未来を構想している風土フォーラムとしても関わりを持つことを考えている。今後、パブリックコメントを募集するにあたり、皆さんからも後期基本計画において提案があればいただきたい。

【意見交換】（発言順）

A委員

基本会議としてパブリックコメントを集約して意見とするのか、各個人の意見を述べるのか。

事務局

基本会議の委員個人の立場で、パブリックコメントへの参加をお願いしたい。

会長

長期振興計画を包含する形でランドデザインが作成されたので、個人で自由な意見を寄せてほしい。事務局から後期基本計画の素案を、いつ頃提示できるのか。

事務局

6月下旬頃には提示できると思う。

○コンパクトシティについて

コンパクトシティは、テーマにより大にも小にもなり方向性も複雑になる。国土交通省のまちづくり基本計画には、コンパクトシティ&ネットワークと謳われており、集約するだけでは都市の生活に十分な条件設定には至ら

ない。そこにネットワークとして交通網、移動手段等の情報が繋がらなければコンパクトシティは成立しないとある。一方、具体的な実施方法として、公共、民間も含めた都市施設の再配置について検討する立地適正化計画制度も創設された。コンパクトシティは、ふるさと創生の大きなテーマであると同時に難しいテーマだが、軽井沢型コンパクトシティについて議論しておかなければプロジェクトチームまで辿り着かない。

【意見交換】（発言順）

会長

軽井沢型と限定している一つの要因は、別荘の在り方と行政の責任所掌の問題がある。風光明媚で静粛な場所と生活に便利な場所は相矛盾するので、どちらかを選択しなければいけない。拡大する別荘地域と行政サービスの限界について、どう整合性を持たせるのかが課題となる。ライフスタイルの変化に応じて、空き家となり老朽化して危険住宅になるケースもある。様々な別荘実態についての把握も問題である。別荘に対する行政サービスについてどう考えるか。

A委員

別荘には多様な形態（夏だけの利用者、週末だけの利用者、別荘地に定住している人等）があり一括りには出来ない。別荘地の居住者と住宅地での定住者には、それぞれのコミュニティがあり、お互い軽井沢の住民としての接点は持たずに生活をしてきた。また、コミュニケーションを図ろうとする働きかけも非常に少ないように感じるが、軽井沢の歴史のような気もする。町長の、町がスプロール化する事を止めて、便利な生活をするには住宅地で、別荘地では不便な生活を甘受してほしいという意見は、勇気ある発言だと思う。これを、別荘地の居住者が理解し賛同して生活しなければいけないが、コアな部分として風土フォーラムが機能できればよいと思う。

会長

別荘地の居住者に対して、行政サービスに差が出ることは仕方がない。

E 委員

行政サービスにおいて、道路・水道・除雪等の整備をしてくれる事は大きい。別荘地の雰囲気の中に居住しながら行政サービスを求めるのであれば、管理事務所がある別荘地を選べばよい。または別に組織を作り町から管理体制を移行することも考えられる。

会長

個人的な意見だが、庁舎内に別荘課が無いのが不思議である。以前この内容について別の会議で議論をした事があるが、全ての窓口で用件を伺っている事から、別荘課を設置していないという事であった。合理的な説明はつくが、事務対応能力がある事と、窓口が開設されていない事は違うと感じる。アウトソーシングすることも含め、別荘を主題としたコンパクトシティを展開しないと、どこかで手落ちが出ることも危惧される。

B 委員

①コンパクトシティには広義と狭義の考え方がある。狭義は、町の中心部にインフラを寄せていく等で、広義は、地域のインフラを民間企業の知恵も取り入れながら進めていく事である。北海道では空港の民営化を検討する中で、施設の所有権を公的機関に残したまま、運営を特別目的会社として設立される民間事業者が実施するという計画もある。

②軽井沢の特色でもある別荘については、実態調査が必要である。別荘の空き家問題もあると推測する中で、特に問題になるのが完全な空き家状態である。シェアリングエコノミーとして、空き家を事業者がリノベーションし活用する方法などを検討するうえでも、まず実態調査が必要だと感じる。

D 委員

コンパクトシティには色々な考え方があるが、長期振興計画にある10年間の人口推移を考えたいうえで、軽井沢らしいコンパクト化について議論しなければいけない。旧軽井沢にはマンションも多いが、真冬は棟全体で誰もいない状態も見受けられる。巨大な建物がありつつも、

町全体がコンパクトである軽井沢独特のスタイルについて議論していきたい。

会長

マンション別荘も非常に重要なポイント。軽井沢型コンパクトシティ論の中で、どこを特化し具体的な施策論にするのか、次回会議においてプロジェクトチームの方向性を探りたい。

(3) プロジェクトチームについて (各プロジェクトチームの近況報告)

○軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチームについて

- ・今年度の方針は、軽井沢駅ステーションフロントの在り方について能動的に進め、デザイン画の作製に必要な事務も進めていく事になった。

D委員 (軽井沢駅北口ステーションフロント構想PT構成員)

個人的には、ステーションフロントを軸に北口全体として捉え、交通対策についても検討していきたい。軽井沢には新幹線で来軽してもらい、町内はレンタカーで移動してもらおうなど検討したい。

○チームみらいえプロジェクトチームについて

- ・近日中に第2回会議を開催し、日程等詳細について検討したい。

(4) 事務局の対応について

○軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチームについて

- ・事務局に寄せられた意見は、まちづくり提案書の記載事項をクリアしたものを中心に取り上げていく。
- ・地域や団体等へ出向き、話し合いの場を広げていく。
- ・風土フォーラムの広報誌作成について検討していく。

【意見交換】（発言順）

F 委員

事務局に来局した人の話だけが、町民の声とは限らないので、イベントや会合等に出向いて意見を集める事は大切。

G 委員

事務局内においても意見は集まらないので、積極的に出向く事は必要。

H 委員

軽井沢は、在住している日常者と観光客という非日常者が混同していて、それぞれのニーズは違う。声を拾う事で見えてくる課題が、風土フォーラムの議論に発展すると思う。

会長

訪ねていき語り合った事を、事務局が文字にする事は有効な掘り起しになる。今後、広報誌において、基本会議委員便りのような事も検討したいので協力願いたい。

4. 事務連絡

5. 閉 会